

理共斗一派の不法・不当なるバリ・ピテ、自主管理を断固糾弾する！

全学連支持会議・理学部

全理学部の学生・院生・教職員のみぞん。

五月十八日 圧倒的多数の学生・院生・教職員の団結した力で 理学部封鎖を阻止された 理共斗・全共斗は、今までのようにはいかないと、戦術を転換し、理学部封鎖を表たてて叫びたてず、しかも本校だけにとりつくろうと 旧学部長室を占拠していましたが、教授会から「団交は正当な自治組織としか出来ないと当然のことをいわれ、一昨日 バリ・ピテによる教授会追放・教授室自主管理という暴挙に出た。しかしこの拙劣な暴行行為は 全共斗の大学解体・全学バリケード封鎖路線の一貫であり、学内への機動隊導入・機動隊管理大学・政府・文部省の「自治破壊」「反動的再編成」に道を開く以外の何ものでもありません。

現在、政府・文部省が今日会成立をもくろむ「大学弾圧立法」は、学問研究・教育をより一尺米日反動・日蒙連占資本の手中にあさめるために、大学の自治・学問の自由を根こそぎ奪い去り、更には全ての民主勢力の様々な民主的諸権利を圧殺しようとするものであると同時に、それは表面的には、全共斗自身がいけいなくもいふように「全共斗弾圧」の仮面をかぶり、多くの国民が全共斗の暴力行為に怒りを感じていることを理由に提出されてきたのです。全共斗は、政府・自民党の人民の権利抑圧、大学の自治破壊の攻撃に手をかしているのです。

理共斗のバリケード・ピテ 自主管理も その全共斗路線そのものです。彼等がどの理由としてわめきたてている教授会の団交拒否はにして正当な理由にるものではないか。

極く一部の学生が教授会をつるしあけて「勝ち取った」確認書が、全々の学生をも拘束するものであるという論理のどこに正当性があるといつのだろうか？ 理共斗と一緒に行動しない学生・院生・教職員は、現在の大学民主化斗争をきくいなから、自分達の意見を主張する権利がないと一方的に決めつけてよいのだろうか。学生の団結の要であり、斗いの母体である自治会や学部委員会を事実上崩壊状態に導き、学生が斗う力を奪っている彼等が、課題が重大であればあるほどいかにして圧倒的多数の学生を結集して斗いを組織するか、学生の創意性と力あふれる行動を展開するひが追求されねばならないのに、彼等は、この大学民主化 立法粉碎のかつまなく緊急の、かつ重大な斗いを前にして、その粘り強い不屈の斗いが要求される時、その斗いを放棄し、その斗いの困難さに屈服し、更には 自治会連戦に敵対し、学生の集会になぐりこみをかけたり、ボラ・ステッカーをはいたり、口人テロルを加えたりしている。それが彼等全共斗一派の本質である。

我々は 理共斗・全共斗一派の封鎖・バリスト・自主管理なるものを断固糾弾すると共に、^の即時解除を要求する。

学部委員会議長はこの間の斗争放棄と自己批判し、学部委員会を召集し、全学部学生の意見をまとめ、又更に深めに討論を巻き起こし、全理学部学生集会を準備せよ。

全学部学生大会を開催し、封鎖糾弾を決議し、大学弾圧立法粉碎、市大民主化勝利の斗いの固い意を統一を勝ち取り、斗いの突破口としよう。

六月二十一日、市大全校総決起集会に結集しよう。

理学部団交、全学団交を勝ち取り、市大民主化を押し進めよう。

全ての米進的学友は理学部が連合に結集し、ワラス、研究室討論を巻き起こし、学部委員会の民主的強化、全学自治会の再建強化に取り組みよう。